

河芸消防団紹介



津市河芸消防団長
津市消防団副統括団長
舟田 英雄

昭和二十九年十月十五日、豊津村、上野村、黒田村の三村が合併して河芸町となり、当時の各村の警防団が、河芸町消防団として発足しました。

当消防団は発足から合併まで五十二年の歴史を重ね、あらゆる災害から町民の生命、身体、財産を守るため、歴代消防団長をはじめとして、団員百七十六名全員が一丸となって日夜を通し頑張っておりま

また、平成十八年一月一日には、さらに十市町村の合併により津市河芸消防団として気持ちを新たにしております。

さて河芸町は、伊勢湾の恩恵を受けた水産加工が盛んな豊津地区、お伊勢参りなどでの宿場町として栄えた上野地区、全国的に有名な黒田米の産地である黒田地区、杜の街の名称で造成された大型住宅地を持つ千里ヶ丘地区の四地区で構成され、それぞれ豊かな自然に囲まれながら歴史や伝統を育んで

きました。

特に町の東側は、伊勢湾に面していることから、マリンスポーツも盛んに行われています。また、毎年七月十五日の夜には、一色地区にある八雲神社で市指定無形民俗文化財の「ざるやぶり神事」という勇壮な神事が行われ、多くの参加者や見物人で賑わいます。河



1/14 河芸消防団新嘗訓練にて

芸漁港を中心とした海岸線は、普段は、平穩を装っていますが、水難事故も何件か発生して

います。また、山間部については、林野火災も多く発生することから、一年を通しあらゆる災害に対応できるように日々訓練を重ね、消防技術の向上に努めるとともに、各地区の自主防災組織などへの指導も行っています。

近年、予想されている大地震にも備え、全消防団員が一致団結し、使命遂行に全力で邁進して、市民が安心して暮らせる街づくりに取り組んでいく所存です。

大地震に備え災害対策本部運営区上訓練を実施

阪神 淡路大震災を風化させるな！

当消防本部では、阪神・淡路大震災を機に制定された「防災とボランティア週間」に合わせて、合併後では初めての大地震に備えた震災対応区上訓練が一月十六日に消防本部の研修室で行いました。

東南海沖を震源とするマグニチュード八・二の大地震が、午前九時に発生したとの想定で始まり、すぐに本部職員は、研修室に災害対策本部の設置に取り掛かり、市内四消防署(中署・北署・久居署・白山署)とをネットワークで結ぶパソコン、被災地の映像などを表示するプロジェクターや無線設備などを手際よく設置しました。



対策本部を設置する本部職員

野田 重門消防長を本部長として、消防本部の全幹部職員が参

集し、市内四消防署の施設などの被害状況と出動可能人員の把握、また人員不足所への応援指示を行いながら、各地域での火災状況、建物や道路の損壊状況、また津波などの災害情報を収集しました。

各消防署からは、刻々と変化していく火災状況や倒壊建物などによる要救助者、死傷者情報、道路や橋の損壊状況などの映像がリアルタイムで大型スクリーンに映し出され、状況に応じて、消防車両の出動や、物資の搬送などの指示を行いました。



各地の被害情報を的確に収集する消防幹部職員

訓練終了後、野田消防長は、「大地震はいつ起きてもおかしくない。訓練を通して反省すべき点は、すべて共有し有事の際に、臨機応変に対応してほしい。」と講評しました。